

Windows8 タブレットは実際に「タブレット」なのか？

鈴木治郎*

szkjiro@shinshu-u.ac.jp

キーワード：GUI, クラウドサービス, マイクロソフト社

1 はじめに

パソコン(PC)はタブレットへ転換すると言われるようになったものの、2014年に入ると、出荷高においてタブレット自身も停滞期に入った感がある。今後タブレットはPCの利用側面の多くを、本当に取って代わることができるのだろうか？そこで本論では、PCによるオフィススイートの利用操作をタブレットに代替するときに現れる問題の一つに焦点を当て、タブレット問題とWindowsタブレット問題を混同しない方がよいと思われる事例を取り上げて論じることにする。

2 タブレットという情報機器

タブレットはどんな情報機器かと尋ねられたときに、多くの方は「画面だけで指で操作できるスマホを大きくしたような装置」というイメージを抱いているようだ。

2015年2月になり、マイクロソフト社の提供する表計算ソフトウェア Excel は、タブレット用のすべての主要 OS 向けに提供されるようになった [1]。そこで、ここでは Excel の画面設計を題材に、画面サイズ 8 インチ級のタブレット同士での比較を試みた。

* 信州大学全学教育機構

*1 これらの比較においては、機種依存性のある画面上の見やすさ、例えば「文字や画像がくっきりしている」とような情報は比較対象としないので、本論における比較において機種依存性はないと考える。

*2 画面サイズは対角サイズであり、「ワイド画面」などでは縦横比が異なる。

2.1 比較対象の仕様

Office Online (旧名称 Office Web Apps) はマイクロソフト社の提供する Excel を含むウェブアプリを提供するサービスである。Windows8.1 では同社の Excel2013 とも比較を実施した。

比較したのは次の 3 機種である*1。

OS	機種名	画面サイズ*2
Apple iOS	iPad mini	7.9"
Android 4.4.4	Google Nexus7	7.0"
Windows8.1	Acer ICONIA W4	8.0"

以下、それぞれの OS の違いを呼称するときは、Apple iOS を iOS, Android4.4.4 を Android, Windows8.1 を Win8 と略称する。各端末の画面サイズは、mm 単位で表すと次の通りである。

OS	横	縦	縦横比
iOS	160.5	120.4	4:3
Android	150.9	94.2	8:5
Win8	172.5	107.7	8:5

3 実際の画面

各環境における Office Online 上の Excel に関して、ホームタブにおけるツールバー上の書式アイコン・ボタン部分を並べたものを次図に示す。図の略称

は、Win8 用のアプリケーション版 Excel を WinA で表した。他はいずれも Office Online 版であり、Win8 用を WinO で、Android 用を An で表した。



画面を一瞥して Win8 のみボタンサイズが小さいことがわかる。ボタンアイコン 1 つの平均幅と高さを次表に示す。単位は mm である。

OS	幅	高さ
iOS	7.5	7.0
Android	8.0	7.6
Win8 Online	<u>5.3</u>	<u>5.3</u>
Win8 Apri	6.5	<u>4.5</u>

マイクロソフト社は、自身のプログラム開発者向けのサイト MSDN で「7×7mm: お勧めの最小サイズ」と明記している^{*3}[2]。この表ではお勧めの 8 割以下である数値に下線を付した。Win8 では両者とも明らかにこの値より小さい。

4 Win8 のデザイン



Win8 でのみ操作困難なほどにボタンサイズが小さく画面設計されていることがわかった。高さを小さくしている要因は何だろうか？それは Win8 版に

おけるボタンの多さである。上図に Office Online の Win8 版（上）と Android 版（下）を示す。ホームタブにおけるツールバーのボタンは iOS 版および Android 版では 1 段なのに対して、Win8 版では 3 段なのである。

5 まとめ

以上の比較からタブレットは、少なくともマイクロソフト社の提供する同じウェブアプリを通じては、Win8 タブレットにおいてのみ指での操作困難な、明らかにマウスあるいは画面タッチでも高精細の操作が可能なデジタイズペンを必要とする問題を抱えた機器であることが確認できた。タブレットの操作性を犠牲にしても、このように設計した理由は何だろうか？マイクロソフト社の製品差別化戦略なのか、あるいは既存 PC 版 Excel ユーザへの配慮なのか筆者にはわからない。

筆者は 2009 年の PC カンファレンスにてメニューバーの価値を論じたが [3]、マイクロソフト社のオフィススイートも、2007 年版以降に版を重ねたことで、以前のメニューバーからのメニューと違和感の小さい現状となっている。だから「PC はタブレットに転換できるか」という問題は、慣れの問題に帰着できる場合も多くあるだろう。

ところが、ここで論じた画面設計の比較を通じると「タブレットが使いづらい」と考える利用者の問題を、悪い画面設計に求めるべき問題があることを私達は知っておかなければならないのである。

参考文献

- [1] <https://office.live.com/start/default.aspx>
- [2] <https://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/windows/apps/hh465415.aspx>
- [3] 鈴木治郎, 松本成司, 『GUI におけるメニューバーの役割と普遍性』, CIEC-PC カンファレンス 2009 報告集, 2009 年

*3 アップル社の推奨するタップ領域の最小サイズは 44×44 ピクセルであり、これは iPad mini の解像度換算で 6.7mm となって、MSDN の指針にほぼ近い。